Ⅱ 調査結果の概要

設備投資が拡大する一方、人手不足感が強まる

１．全体の概況

売上高と収益性を合せたＤＩ平均値(同期比)については▲22.3となり、前回調査(28年7-9月期)の▲21.3から1.0ポイント下降している。来期見通しにおいては、6.3ポイント上昇して▲16.0となる見通しになっている。

売上高ＤＩ(同期比)については▲25.5となり、前回調査から1.3ポイント下降している。来期見通しにおいては8.8ポイント上昇して▲16.7となる見通しになっている。

収益性ＤＩ(同期比)については▲19.0となり、前回調査から0.7ポイント下降している。来期見通しにおいては3.8ポイント上昇して▲15.2となる見通しになっている。

業況ＤＩ(同期比)については▲16.2となり、前回調査から2.5ポイント上昇している。来期見通しにおいては4.6ポイント上昇して▲11.6となる見通しになっている。

原材料価格ＤＩ（前期比）については13.7となり、前回調査から9.5ポイント上昇している。

販売価格ＤＩ（前期比）については▲6.9となり、前回調査から0.6ポイント下降している。

資金繰りＤＩ（前期比）については▲10.8となり、前回調査から2.1ポイント下降し、悪化している。

金融機関の態度ＤＩ（前期比）については0.5となり、前回調査から2.4ポイント上昇し、緩和している。

設備投資実施率については36.0%となり、前回調査から9.3ポイント上昇し、平成元年7-9月期以来の高水準となっている。業種別で最も高い実施率となったのは「機械・機器」の44.2%、目的別では「品質向上」が28.6%でトップとなっている。

来期の設備投資計画率については32.2%となり、前回調査から1.6ポイント下降している。

設備操業率ＤＩ（前期比）については▲5.8となり、前回調査から4.9ポイント上昇している。

雇用人員判断ＤＩ（前期比）については、不足感の弱まり傾向が見られていたが、前回調査から15.9ポイント上昇して18.6となり、不足感が大幅に高まっている。

全体の景況天気図は、26年7-9月期に「曇」から「小雨」に転じて以降、10期連続して「小雨」が続いており、来期見通しにおいても「小雨」が続く見通しとなっている。

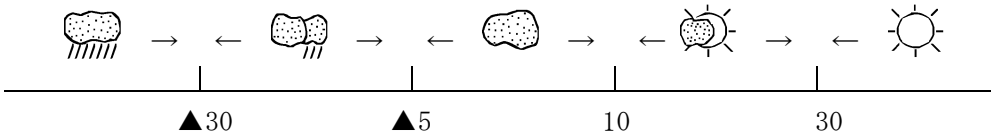
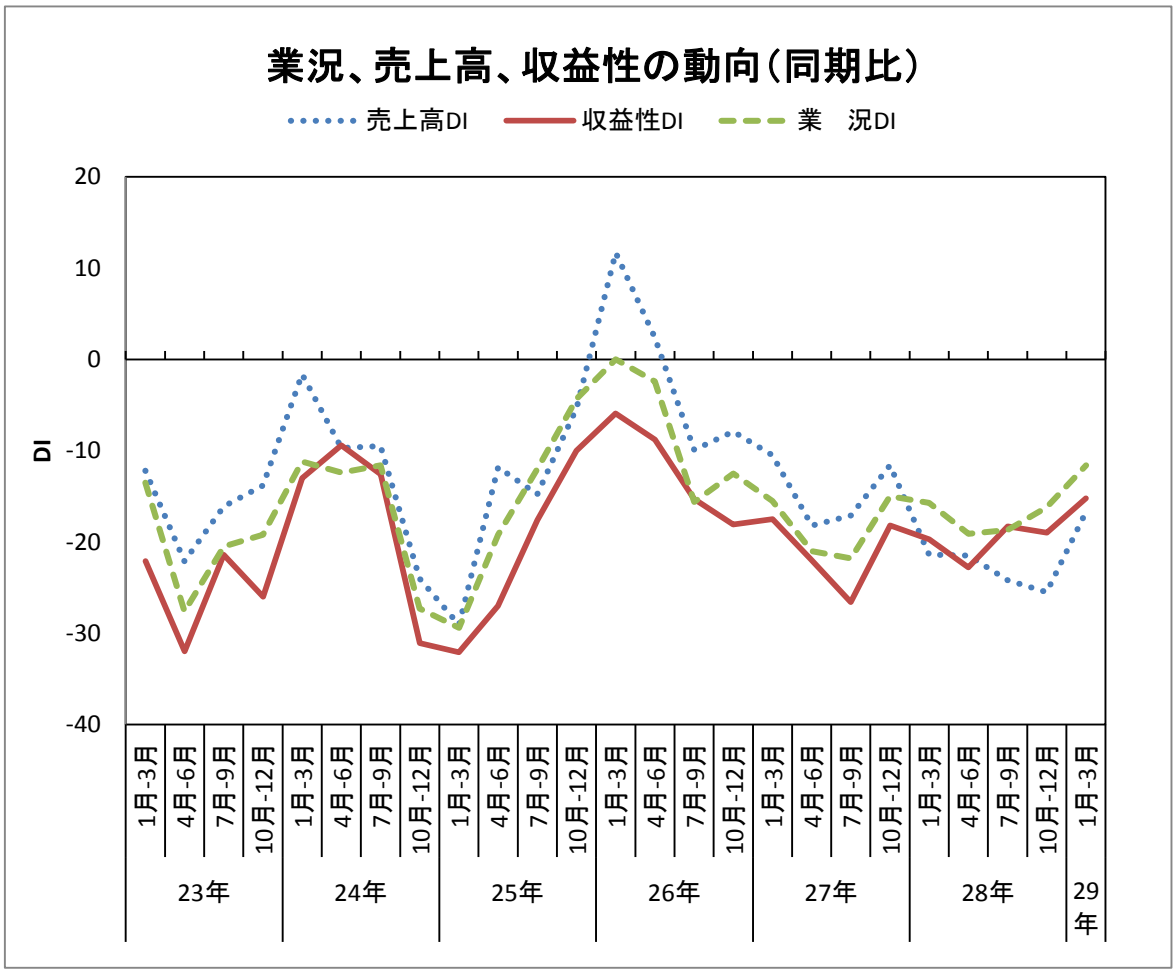
業種別に見ると「食料品」は「雨」から「小雨」へ唯一天気図が回復している。反面、「機械・機器」は「小雨」から「雨」へ悪化している。また、「プラスチック製品」は「薄日」、「木材・木製品」・「金属・同製品」・「紙・加工品」・「繊維・同製品」は「小雨」、「窯業・土石製品」は「雨」と、それぞれ前回調査同様の天気図となっている。

来期見通しにおいては「機械・機器」・「窯業・土石製品」は「雨」から「小雨」へそれぞれ回復。反面、「プラスチック製品」は「薄日」から「曇」、「木材・木製品」は「小雨」から「雨」へそれぞれ悪化。「金属・同製品」・「食料品」・「紙・加工品」・「繊維・同製品」は「小雨」がそれぞれ続く見通しとなっている。

【図表１】

	26	27				28				来期見通
	10－12	1－3	4－6	7－9	10－12	1－3	4－6	7－9	10－12	
全体	▲13.0	▲14.0	▲20.1	▲21.9	▲14.9	▲20.6	▲22.2	▲21.3	▲22.3	▲16.0

※景況天気図は「売上高」「収益性」（同期比）のＤＩ平均値を下記の基準に当てはめたもの。



【図表２】